

2026年3月期第2四半期 決算説明会資料

栄研化学株式会社（証券コード：4549）

2025年10月30日

1. 2026年3月期第2四半期決算概要
2. ROIC向上への取り組み進捗
3. トピックス

2026年3月期 第2四半期決算概要

エグゼクティブサマリー

■ 外部環境

- ✓ 世界的な資源価格の高騰や地政学的リスク、米国の通商政策や主要国の金融政策等の影響
- ✓ 物流及び原材料調達などのコスト上昇継続

■ 当社業績

- ✓ 海外向けの便潜血検査試薬、尿検査試薬および医療機器が堅調に推移し増収増益
- ✓ 連結子会社の持分譲渡による売却益を特別利益に計上

■ トピックス

- ✓ 本社を東京都台東区より千代田区「御茶ノ水ソラシティ」に移転
- ✓ 中国にマーケティングおよび研究サポートのための現地法人を設立
- ✓ アフリカ開発会議 TICAD9へ参加し、TB-LAMP等当社製品の有用性について訴求
- ✓ 自己株式の消却を決定（400万株）

2026年3月期Q2累計業績

金額単位：百万円

	25年3月期 Q2累計実績	26年3月期 Q2累計実績	増減額	増減率	26年3月期	
					通期予想	進捗率
売上高	19,729	20,430	700	3.6%	42,200	48.4%
売上原価	11,522	12,059	536	4.7%	25,150	47.9%
売上総利益	8,207	8,371	164	2.0%	17,050	49.1%
販売費及び一般管理費	6,640	6,642	2	0.0%	13,800	48.1%
営業利益	1,566	1,729	162	10.4%	3,250	53.2%
経常利益	1,698	1,730	31	1.9%	3,100	55.8%
当期純利益	1,309	2,979	1,670	127.5%	3,770	79.0%
研究開発費	2,036	1,875	△161	△7.9%	4,040	46.4%

海外向けの便潜血検査試薬、尿検査試薬および医療機器が堅調に推移し増収増益
 連結子会社の持分譲渡 売却益20億円を特別利益に計上
 通期業績予想の変更なし

セグメント別売上高

金額単位：百万円						
	25年3月期 Q2累計実績	26年3月期 Q2累計実績	増減額	増減率	26年3月期	
					通期予想	進捗率
便潜血	6,613	6,858	244	3.7%	13,640	50.3%
免疫血清（便潜血を除く）	4,870	4,886	16	0.3%	9,680	50.5%
尿検査	2,293	2,362	69	3.0%	4,740	49.8%
微生物	2,194	2,148	△45	△2.1%	4,900	43.8%
生化学	295	300	4	1.6%	610	49.2%
器具・食品環境	1,001	949	△51	△5.2%	1,860	51.1%
遺伝子関連	712	1,012	299	42.0%	2,440	41.5%
医療機器・その他	1,748	1,912	163	9.4%	4,330	44.2%
合計	19,729	20,430	700	3.6%	42,200	48.4%

海外向けの便潜血、尿検査および医療機器が堅調に推移
遺伝子関連は、一時的な特許料収入があり増収。ナイジェリアのTB-LAMP受注は再開するもUSAID閉鎖による影響を注視

営業利益増減の分析

金額単位：百万円



増収および経費の効率的な使用により前年同期比で営業利益は増加
物流及び原材料調達などのコスト上昇により売上原価率は上昇

地域別売上高

金額単位：百万円						
	25年3月期 Q2累計実績	26年3月期 Q2累計実績	増減額	増減率	26年3月期	
					通期予想	進捗率
国内	14,831	14,981	149	1.0%	30,150	49.7%
海外	4,898	5,449	551	11.3%	12,050	45.2%
海外売上高比率	24.8%	26.7%	—	—	—	—
合計	19,729	20,430	700	3.6%	42,200	48.4%
米州	1,243	1,216	△27	△2.2%	2,530	48.1%
EMEA	1,715	2,109	393	22.9%	5,260	40.1%
APAC	1,938	2,123	185	9.6%	4,260	49.8%

海外は、主要各国の便潜血試薬・装置の売上がTB-LAMPの落ち込みを補い増収

(米州)

- ✓ 上期微減収も、対象年齢拡大、内視鏡トリージ、化学法から免疫法へのシフトによる需要増加の流れは継続

(EMEA)

- ✓ イングランド、フランスのFIT国家スクリーニング継続獲得
 イングランド：26年7月開始
 フランス ：26年1月開始
 フランスは対象者全員に採便容器を配布
- ✓ 前年同期は便潜血で一過性の減収要因があったが、当期は対象年齢拡大や採便容器配布方法拡充などが寄与し各国堅調に推移
- ✓ USAID閉鎖の影響により結核遺伝子検査TB-LAMPの販売が遅延

(APAC)

- ✓ 尿検査用試薬・装置ともに堅調に推移

米州：北米および中南米
EMEA：欧州およびアフリカ・中東・ロシア [途上国向け結核検査薬（TB-LAMP）は欧州地域に含む]
APAC：アジア・オセアニア [海外向け尿検査用試薬（シスメックス(株)との提携）の売上はすべてアジア地域に含む]

ROIC向上への取り組み進捗

収益力の強化

	施策	28年3月期 営業利益率 改善目標値	26年3月期Q2 進捗状況
原価 低減	・ 主力・収益・育成製品群への集中投資 ・ 新製品・改良品上市・拡販 ・ 低収益製品群の整理・撤退 ・ 製品剤型の整理・改廃 ・ 需要予測の精度向上 ・ 工場ロスコストの削減 ・ 尿検査、免疫血清検査の生産拠点を野木工場へ集約 ・ データ駆動型スマートファクトリーへの取り組み	+ 2.0 pt	✓ 収益製品であるPOCT新製品（アデノ・ストレプトA）の拡販強化策を開始 ✓ 主力製品であるFITにおいて海外の対象年齢拡大効果による販売増加 ✓ EMEAエリアにおいてカルプロテクチンの拡販効果による販売増 ✓ 低収益品（製品群）粉末培地および器具品137品目を市場適正価格に改定し、売上原価改善 ✓ 尿検査用試薬の製造拠点を中国から野木工場へ集約し尿試験紙の売上原価改善
販管費 低減	・ 製品ポートフォリオに基づく委託研究費の適正化 ・ 人員構成・要員計画の最適化による労働生産性の向上	+ 3.2 pt	✓ 売上高人件費率 26年2Q 前年同期比 △0.6pt

（参考）営業利益率 25年3月期実績 7.4% → 28年3月期目標 12.6%

運転資本回転率（CCC）の最適化

25年3月期 106日 → 26年3月期目標 102日

（参考）28年3月期目標 85日

26年3月期Q2進捗および通期目標への対策：

- ✓ 売上債権回転期間 主要取引先との取引を順次電子債権取引へ切り替え、資金化までのリードタイムを約4日短縮することでキャッシュフローを強化
- ✓ 棚卸資産回転期間 USAID閉鎖に伴うTB-LAMPの受注遅延により、原材料および中間製品の在庫が一時的に増加
また、取引先との契約に基づき機器在庫が増加
10月以降のTB-LAMP出荷および機器の計画通りの販売により在庫を圧縮

資産の適正化

- ✓ 栄研生物科技（中国）有限公司の持分譲渡 売却益約20億円（26年3月期Q2特別利益に計上）

財務の最適化

最適資本構成・適正自己資本

- ✓ 自己資本比率（25年9月末時点） **69.3%**

(参考)
自己資本比率目標 70%以下

株主還元

- ✓ 26年3月期 中間配当金：**29円**（年間配当金：58円 予想）
- ✓ 自己株式の取得 200万株完了（24年10月～25年7月）

(参考)
株主還元方針：総還元性向50%以上目標

自己株式の消却

- ✓ 消却株式数：4,000,000株（消却予定日 25年11月14日）
- ✓ 消却後の発行済株式総数：34,541,438株（消却前：38,541,438株）
- ✓ 消却後の保有自己株式数：1,573,237株（自己株式保有率：消却前 14.5%→消却後 4.6%）

自己株式は、原則用途が明確化された部分を除き消却

企業価値向上を目的に、残りの自己株式は役員および従業員への譲渡制限付株式報酬として活用

社長キャラバン

新社長の瀬川（25年6月就任）による全事業所訪問形式による全従業員を対象とした社長キャラバンを実施

- ✓ 中計目標達成に向け従業員のモチベーションアップ
- ✓ ROIC経営の重要性を説明
- ✓ 上期実施 タウンホールミーティング16回/23回、座談会20回/29回（206名）



トピックス

1. 本社移転
2. 中国現地法人設立
3. TICAD9への参加
4. コーポレート・ガバナンス体制の強化
5. サステナビリティ戦略の推進
6. 企業PR

1. 本社移転

新本社所在地：東京都千代田区神田駿河台四丁目 6 番地 御茶ノ水ソラシティ 20 階

移転の狙い

1. 多様な働き方を支えるオフィスデザイン
2. 従業員の快適性と健康への配慮
3. 環境への配慮
4. ステークホルダーエンゲージメントの向上



2. 中国現地法人設立

設立の目的

中国市場におけるマーケティングおよび栄研化学の研究サポート機能をもつ現地法人を設立し、中国事業の拡大と展開に寄与

概要

会社名	栄研医药（上海）有限公司 （栄研医薬（上海）有限公司） （EIKEN MEDICAL SHANGHAI COOPERATION）
設立日	2025年5月20日
資本金	50万元
資本構成	栄研化学株式会社 100%
事業年度末日	12月31日
代表者	董事長 森 安義
所在地	Office 2279,22F,No.1193 Changning Road, Changning Distict,Shanghai.China 200051

事業内容

診断用医薬品、医療および理化学機器・器具に関するマーケティングおよび研究

マーケティング

市場調査

- ✓ 中国市場における臨床検査を含むヘルスケア分野の動向調査

技術調査

- ✓ 中国発の新規技術トレンドと欧米由来の先進技術導入状況の包括的調査

研究サポート

現地技術・製品評価

- ✓ 新技術の見極め

栄研化学の研究支援

- ✓ 現地先端的研究への挑戦支援、データ取得サポート

3. TICAD9（アフリカ開発会議）

25年8月20～22日に、パシフィコ横浜にて開催されたTICAD9（第9回アフリカ開発会議）で、アフリカ地域の感染症対策支援の一環として、TB-LAMPをはじめとする当社製品の有用性を訴求

アフリカ各国政府代表団および国際機関関係者に対し、当社技術の貢献可能性の理解促進を図り、今後の事業展開に向けた連携基盤を強化

【当社登壇イベント】

- ・ストップ結核パートナーシップ・厚労省「Together for Africa: Driving Health Innovation to End TB with Japan」
- ・マラリアノーモアジャパン「アフリカのマラリア危機に挑む：日本の技術と革新が導く解決策」
- ・国立健康危機管理研究機構「アフリカにおける医療技術等国際展開推進事業 10年の歩みとこれから」



Post-TICAD9

当社は、TICAD9での活動を踏まえ、ロビー活動と国際連携の強化を継続しています。

25年10月にはドイツでアフリカ各国大使を招いた会合を開催し、各国の結核対策の現状と課題について意見交換しました。当社はTB-LAMPスターターキット（装置と試薬）を寄贈し、現地での導入促進と医療アクセス向上を支援しています。

「TB-LAMP」は、アフリカの感染症診断体制を強化する技術として、認知が広がりつつあります。



4. コーポレート・ガバナンス体制の強化

企業価値の向上のため、経営の健全性、迅速性および透明性を高め、株主視点を重視したコーポレートガバナンスの充実を図る
25年6月末以降はその体制を強化

✓ 経営の透明性

指名委員会、報酬委員会、監査委員会の
委員長および委員はすべて社外取締役

		(25年6月末以降)	
指名委員会	3名	→	3名
うち社外	2名		3名
報酬委員会	3名	→	3名
うち社外	2名		3名
監査委員会	4名	→	4名
うち社外	3名		4名

✓ 取締役会の独立性

社外取締役が過半数
議長は社外取締役

		(25年6月末以降)	
取締役会	8名	→	10名
うち社内	3名 (議長含む)		3名
うち社外	5名		7名 (議長含む)

5. サステナビリティ戦略の推進

サステナビリティ方針にもとづき、世界の人々の健康を守る企業として事業活動を通じ、「医療」・「環境」・「社会」・「ガバナンス」の社会課題の解決に貢献

- ✓ マテリアリティKPIの年度実績開示（2025年7月）
- ✓ マテリアリティKPIを一部上方修正、中計最終年度 2027年度の目標を設定しサステナビリティ経営を実践
 - ・大腸がんスクリーニング検査の展開国数 2030年度目標 57か国→67か国
 - ・開発途上国の製品採用国数 2030年度目標 15か国→18か国

https://www.eiken.co.jp/uploads/Materialities&KPIs_2507.pdf

- ✓ 「栄研化学 統合報告書2025」によるサステナビリティ活動実績開示（2025年8月）

https://www.eiken.co.jp/uploads/eiken_integrated_report_2025_jp.pdf



（参考）社外からの評価・イニシアチブへの参加等



6. 企業PR

企業認知度向上、当社の価値・魅力をアピールする目的で企業PRを開始

- ✓ ニッポン放送ラジオCM放送
 - ・「かもしれない」編（2025年3月、7～12月）
 - ・時報CM「お知らせの前に」編（2025年4月～6月）
- ✓ ポッドキャストCM放送
 - ・「栄研化学の使命」編、「かもしれない」編（2025年5月～8月）
 - ・「大腸がん検診のススメ」編（2025年9月～11月）
- ✓ スカイマーク機内誌「空の足跡」紙面広告（2025年9月～10月）

各広告はこちらで視聴できます ⇒ <https://www.eiken.co.jp/company/koukoku/>



スカイマーク「空の足跡」

- ✓ ニュースリリース配信サービスの導入

プル型ではなくプッシュ型情報発信ツールとして『PRタイムズ』を活用した一般媒体やSNSへの配信

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/162972



PR TIMES

Appendix

連結貸借対照表

	25年3月末 (百万円)	26年9月末 (百万円)	増減 (百万円)
現金および預金	9,873	9,533	△340
営業債権およびその他債権	11,741	11,705	△36
その他の金融資産	0	0	0
棚卸資産	8,500	9,065	565
その他の流動資産	1,416	2,023	606
流動資産 計	31,532	32,327	795
有形固定資産	22,121	23,774	1,653
無形固定資産	670	399	△271
投資その他の資産	8,048	6,752	△1,295
固定資産 計	30,840	30,926	86
資産 合計	62,372	63,253	881

	25年3月末 (百万円)	26年9月末 (百万円)	増減 (百万円)
営業債務およびその他の債務	8,489	8,016	△473
その他の流動負債	5,886	6,914	1,028
流動負債 計	14,376	14,931	554
社債および借入金	3,000	3,000	0
その他の非流動負債	1,397	1,384	△13
非流動負債 計	4,397	4,384	△13
負債 合計	18,773	19,315	541
資本金	6,897	6,897	0
資本剰余金	7,892	7,925	33
利益剰余金	34,700	36,778	2,077
自己株式	△6,756	△7,942	△1,185
その他の包括利益累計額	505	189	△315
新株予約権	358	89	△268
純資産 合計	43,598	43,938	340
負債および資本 合計	62,372	63,253	881

研究開発費・設備投資・減価償却費

金額単位：百万円

	25年3月期 Q2累計実績	26年3月期 Q2累計実績	25年3月期 実績	26年3月期 予想
研究開発費	2,036	1,875	4,386	4,040
設備投資	4,763	2,872	7,699	4,240
減価償却費	1,177	1,146	2,533	2,780

■ 野木事業所 新製造棟

名称：ICPP（Immunochemical Product Plant）棟

竣工：2025年6月30日

稼働：2025年9月バリデーション開始（2026年3月初出荷予定）

総工費：65億円

生産品目：免疫血清検査用試薬



Saving Your Health



EIKEN CHEMICAL CO., LTD.

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

本資料は、一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。

当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。